

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	山形県
-------	-----

学校の概要

学校名	酒田市立中平田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1		6	12
児童数	16	22	22	17	14	30		121	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の育成と定着を図る学校システムの改善 ～国語科・算数科を中心として～
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

教科担任制 3～6年生 理科 3, 5, 6年生 音楽 1, 3, 4年生 図工 3～6年生 書写 教師の得意分野を指導に生かすため。 きめ細かな指導 全学年 国語 算数 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 無学年制系統学習 算数「数と計算」領域 全学年 「確かな学力」を支える土台の学力である計算の力をつけるため。 英語活動 全学年 英語に慣れたり、国際理解を深めるため。 学習評価改革 全学年

(2) 年次ごとの計画

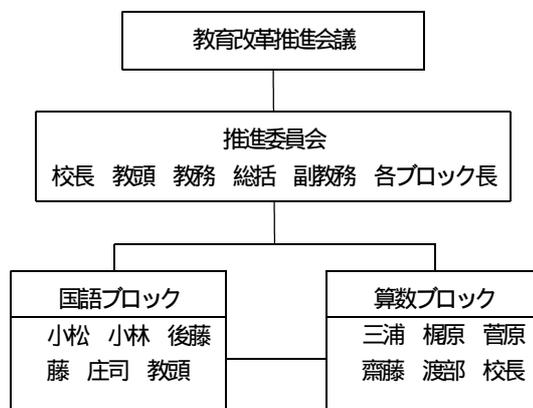
平成14年度	テーマ 経営システム・指導システム・連携システムの改革 ～個に応じた指導のための指導体制・指導方法の工夫改善～ 研究内容・方法 全学年における教科担任制の実施 算数「数と計算」領域の無学年制系統学習の実施および教材の開発 英語活動の実施 評価の二期制の導入と通信箋（年2回配付）の自校作成
--------	---

平成15年度	テーマ 確かな学力の育成と定着を図る学校システムの改善 ～国語科・算数科を中心として～ 研究内容・方法 教科担任制の充実 国語科・算数科におけるきめ細かな指導の工夫 児童の理解の状況に差が出やすい国語科・算数科でTT指導・少人数指導を工夫する。 無学年制系統学習における指導のあり方・評価の方法および教材の開発 英語活動の充実
--------	---

平成16年	テーマ 確かな学力の育成と定着を図る学校システムの改善 ～国語科・算数科を中心として～ 研究内容・方法
-------	--

度	教科担任制の充実 国語科・算数科におけるきめ細かな指導方法の工夫 無学年系統学習と算数科の学習との連動を工夫 英会話学習の充実と年間指導計画の見直し
---	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

教科担任制	<ul style="list-style-type: none"> ・児童対象のアンケートによると「教科担任制になって、以前よりその教科が好きになりましたか。」という質問に対して、95%の児童が「好きになった」と答えた。このことから、教師の専門性を生かすことのできる教科担任制が児童には受け入れられていることがわかる。 ・教師の専門分野や得意な分野であるため、児童にとってより興味のわく課題提示ができたり、わかりやすく、おもしろい授業が展開された。 ・学年の系統をふまえて授業を組み立てることができた。 ・子どもに複数の教師が関わることで、子どもを多面的に理解する一助となった。
国語科・算数科におけるきめ細かな指導方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいに応じて、TT指導および少人数指導の組み込みが工夫され、子どもたちの学習意欲を高めることができた。 ・コース学習・グループ学習等が工夫され、個に応じたきめ細かな指導がなされるようになってきた。 ・事前、過程、事後における評価を指導に生かす工夫がなされた。 ・理解を助けたり学習内容を定着させたりするための補充教材や個を伸ばしたり応用力を育成したりするための発展教材が工夫された。 ・児童対象の「学習に関するアンケート」結果によると、国語と算数について去年より「わかるようになった」「好きになった」と答えた児童が90%以上と多かった。きめ細かな指導の効果とあってよいと考える。
算数無学年制系統学習	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より検定制を導入したことにより、児童の学習意欲がさらに喚起された。また検定により、一人一人の進度の把握が可能となった。検定にあたる教師と個別指導にあたる教師に役割を分担して指導する体制が確立された。 ・児童対象のアンケートによると「算数パワータイムが楽しい」と答えた児童は、91%と高かった。自分のペースで学習できるシステムが児童に受け入れられている。
英語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な挨拶、身近な物や事象について聞き取ったり発音したりできる子どもが増えた。 ・年間指導計画および1単位時間毎の活動案と教材が蓄積された。

〔参考資料 1〕 学習に関するアンケート 結果

調査年月日 平成15年12月19日 調査人数(2年~6年)103名

しつもん	こたえ(人)			
	とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
去年と比べて国語の勉強がわかるようになったか。	4 4	5 3	3	3
去年より国語の勉強が好きになったか。	4 4	4 2	1 5	2
去年と比べて算数の勉強がわかるようになったか。	6 4	3 4	3	2
去年より算数の勉強が好きになったか。	6 2	3 5	5	1
国語パワータイムの勉強は、楽しいですか？	5 1	3 7	1 3	2
算数パワータイムの勉強は、楽しいですか？	7 3	1 8	1 0	2
教科ごとに教える先生がかわり、その教科が前より好きになりましたか？	4 4	5 4	4	1

〔参考資料 2〕 学力テストの偏差値の推移(平成13年度～15年度)

教研式的学力検査

国語科	13年度	14年度	15年度	算数科	13年度	14年度	15年度
現4学年		50.5	55.4	現4学年		50.1	55.9
現5学年	46.9	47.8	50.0	現5学年	45.7	46.7	52.0
現6学年	48.2	49.4	53.4	現6学年	46.0	45.6	48.5

2. 今後の課題

<p>教科担任制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上と児童理解の両面からみた時の効果的な教科担任の在り方 <p>国語科・算数科におけるきめ細かな指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TT指導、少人数指導の効果的な在り方 ・個に応じ個を伸ばすコース学習・グループ学習の工夫 ・補充教材、発展教材の工夫 <p>算数無学年制系統学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科の学習との連動 <p>英語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームティーチャーが主体となって指導する体制への改善 ・年間指導計画および1単位時間毎の活動案と教材の整理 <p>学習評価改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期制により適合する通信箋の配付回数と内容の検討
--

学力等把握のための学校としての取組

<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な学力検査の実施(年1回) ・児童対象のアンケートの実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>自主公開發表会の実施</p> <p>日 時：平成16年1月21日 午後1時より午後4時45分</p> <p>場 所：本校</p> <p>発表内容： 指導体制・指導方法の工夫 評価を生かした指導の工夫 個に応じた教材の開発 無学年制系統学習「算数パワータイム」</p> <p>参加者：庄内管内の教育関係者、県外の希望者等 59名</p>
--

